

特集

今や、省エネで競争力を付ける時代に入ったのかもしれない。電気を小まめに消すといったちょっとした省エネから、事業所・工場の抜本的省エネまで、取り組みはさまざま。今号では、CO₂排出量削減や地球温暖化対策にも寄与している中堅・中小企業の成功例を取り上げた。

さあ、省エネに 取り組もう



取材・清水 高
山田清志
関根利子

全照明をLEDに交換して
商店街初の国内クレジット制度適用

ハッピーロード大山商店街
東京・板橋区

東京都板橋区にある「ハッピーロード大山商店街」。ここは、おとし12月にアーケードの照明灯を環境負荷の少ない発光ダイオード(LED)に切り替え、CO₂削減量を国内クレジットとして大手スーパーマーケットに売却した。国内クレジット制度を活用した商店街の事例は、全国初。アーケードの照明維持費用を大幅に下げ、省エネ、エコ対策に実績を挙げた取り組みを追った。

活気に満ちた大山商店街

池袋駅から東武東上線各駅停車に乗ると約6分。大山駅を降りると、すぐ目の前にハッピーロード大山商店街がある。半径1km圏内で生活する約13万人に加え、「大山では昔から安いものが買える」と地元の板橋区や近隣の練馬区からもたくさんのお客が訪れる。戦後から今日まで、ずっと活気を維持しているまれな商店街だ。

長さ約560mのアーケードには



▲ハッピーロード大山商店街はアーケードが長いので、以前から照明コストの負担が大きかった

青果や精肉、鮮魚など、小規模商店が約200店舗並んでいて、いずれも盛況である。昨年の暮れに取材で訪問して現地を見たが、空きテナントは1軒もないという。「大手スーパーが進出できるほどの広い立地がなかったこともあって、小さな店ばかりですが、現在まで続いています。買い物に來られるお客様も、この商店街が冷蔵庫代わりという感じで、ほぼ毎日、小まめに食材を買いに來られるんですよ」と話すのは、ハッピーロード大山商店街振興組合事務局長の水野隆司さんだ。

ちなみに、毎月の商店街の会費は、1店舗平均約5万円。振興組合では、30坪の事務所を賃借し、4人の職員を雇用している。

朝10時から夜8時まではこのアーケードを訪れる人は、一日約2万1000〜2万3000人。日中は買い物客でこった返す時間帯もある。

午後3時を過ぎると、アーケードの天井両脇に延々と設置されて